



常磐文藝

余の好める句

星影生

俳句は平易清新にして底の深い句でなければいけな...

(四)

人がどうです一旬などといふのは頗る俳句を侮辱したもので、一句を作る努力は一篇の文章を作る努力と同じものである...

價定 一部金貳錢 月極 二限リ一ヶ月卅錢 料告廣

五號十三字詰 一行五十錢

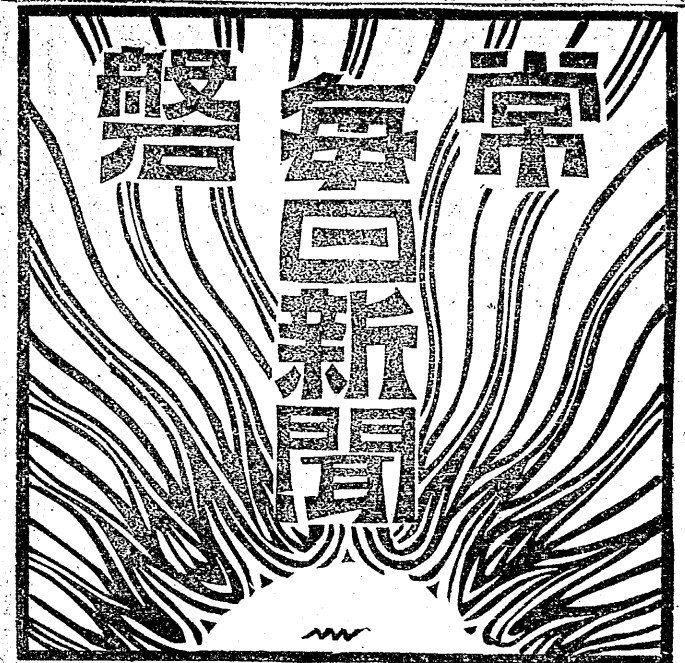
日刊休 日曜 大祭 祝日の翌日

所刷印 福島縣石城郡平町 田町十六番地 磐城新聞社印刷部

編輯人 川崎文治

發行兼印刷人 川崎文治

(一) 可觀物便郵種三第日十月一十年二十正大

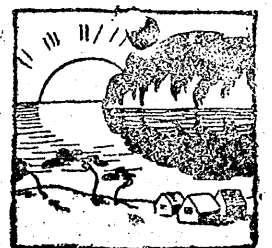


刊夕日九十月一十

余の一日 (一) 社長 川崎文治 余、常磐毎日新聞が突如...

是れが本紙の生命である、故に紙面に網羅する記事の總べては常に精選を...

の大商店を見た眼で平町の商店を『總べてが劣つて居る』と云ふのと同様甚だ無...



祝發刊

金物卸問屋

釜屋商店

平町五丁目電話九番

松島水上養魚場の養殖したカキ貝の取次店を開始しました...

カキフライ一枚廿錢

カフェータヒラ

平町紺屋町住吉屋本店前

金庫及自轉車 販賣及修繕業

高野得助商店

平驛前電話三二六番

祝刊發

讀書家新刊雜誌回讀

即時御加入あれ

時代の潮流に棹さし豊富なる智識を吸収せんとする人は...

川崎巡回文庫

申込 御加入さる方は希望雜誌五冊を指定し住所氏名明瞭...

戸数割審議の町會

平町の總處得額二百卅萬圓
賦課人員は四千四百七十七人

平町に於ける本年度後期縣稅戸數割等差審議の町會は明日午前十時より議事堂に於て開會の筈であるが同配當受額三萬二千八百九十八圓九十九錢の内後期賦課額は一萬六千四百四十九圓四十九錢であつて其内所得額に依る算定額は八千二百廿四圓七十四錢住家坪數に依る算定額六千五百七十九圓八十錢である而して賦課總人員は四千四百七十七人で前期より百六十人増加し所得

平郵便局の

電話増設

加入申込期間

平郵便局が本年度に取扱ふべき電話連接加入増設は来る廿一日より廿五日迄の五日間に亘り申込書を受付く由

金を返さぬ腹癒せに片腦油を井戸に投す

水を汲む際異様な臭氣

不思議に思つて犯人嚴探

石城郡小名濱町字定西遠藤正一方にて去月十七日朝井戸より水を汲まんとせるに異様な臭氣がブツと鼻をついた爲め不思議に思つて其筋に届出取調への結果人体に害ある片腦油の混入して居る事を知り何者が投入したるやと忍かに犯人嚴探中の處右は同町字中島德藏姉後田サク(四〇)の所業と判明中署にて柴田警部補取調への上本日健康危害物混入罪として書類を検事局に送られた、犯罪の動機は以前サクが正一に對して七十圓餘を貸した處其後幾回請求

學力補充講習

石城郡教育會にては廿五日より警中新校舍にて尋正教員學力補充講習會を開く筈だが課目は博物と圖書

大國魂神社

縣社に昇格

奉祝祭は來春

石城郡夏井村大字菅波鎮座郷社大國魂神社は去る十六日内務大臣より縣社に加列せる旨の通達あつた爲め其奉祝祭は來年恰も六十一年目

の甲子に相當するを以て舊正月十一日の初甲子の日を期して執行の由

町制祝賀會

江名濱の賑ひ

石城郡江名町にては來月上旬を期して町制施行祝賀會を催す由

共済金を申請

平町

材木町消防組伍長根本幸次郎氏が品川白煉瓦火災の消防盡力中負傷した共済金を平署長から本縣に申請した

情婦の墮落

東京府下

北豊島郡赤塚村皆吉長男田中久松(二四)は去月廿一日材木買出代金八十圓を携帶し情婦姓不詳し(二四)と平町方面に逃走せりとして實受から平署に搜索願出た

物騒な隠匿物

石城

郡好間村大地上好間字大畑

炭礦勞働者の厄日か

一日に四名の死傷者

落盤重傷や炭車に轢かれ

漏電の黒焦屍体

去る十四日は石城郡内炭礦勞働者の厄日であつたか各所に死傷者を頻出した

内郷村警城炭礦車夫杉

本文作(二二)

は午後十

一時五十分頃落盤で瀕死

の重傷を負ふ

好間村古河炭礦の車夫

新保文次郎(三二)

は午前

二時頃結鎖切斷して逆行

した炭車に轢かれて惨死

教育入會者

警中と高女の職員

本縣教育會へ新に入會せる氏名は左の如し

信用組合

好成績を示す

石城郡小名濱町農會長小野四郎氏主唱に依り鈴木町長小野縣議其他有力者に依つて成立した有限責任小名濱信用組合は過般來出資第一回の拂込中の處豫期以上の成績を示し本日一先づ締切つた爲め尾形産業主學が實地指導に出張した

不平受付

投書歡迎

南裡の道路

平町繁榮策の一着手として南裡に新道路を開通すべきは町民の一人として喜びに耐われない處であつた然るに各新聞の報導依れば本月上旬か遅くも中旬頃には工事に着手する旨であつたに拘らず未だにそんな模様も見えない餘りに町當局はグツグツし過るんぢやないかと思ふが如何でせう (一町民)

伏見助役の答

氣を採まれるのも無理はないと思ひます、而し既に財源の整理も済みましたから本月下旬には請負入札を爲しごんなに遅れても來月は起工の運びに至る確信です

常磐片々

平町の戸數割審議は明日

税金が安くなつた者があれば一方には必らず高くなつた者がある筈

其處で高くなつた者は不當課税だと騒ぎ出す、

例に依つて例の如しか、イヤイヤ

小學校の先生でさへ學力補充の講習を開いて勉強する

以つて範とすべし

金を返さぬ爲めに片腦油を井戸に投げ込んだ女がある

まさか金をヘンノーしろとシヤレた譯でもあるまい

十四日に炭礦勞働者四名死傷す

四は死に通ずでどうも縁起がよくない

石城政派が縣議補欠戦で敗

を招いた選挙區も四區

物云はざれば腹ふくる、本

紙に不平受付欄を設く

充分に體價を晴らして戴き度い

城山青年總會 平町

後一時から湯殿山神社にて

總會を開き團長市原陸郎氏

座長席に就いて諸般の事項

を附議した

平裁判だより

醫師宅へ侵入

双葉郡川

内村大字上川内字木葉橋土

橋南田正勝(三二)三瓶寅

松(三〇)猪狩兵(三八)新

妻安助(三五)猪狩徳平(三

〇)新妻彌六(三二)新妻彌

吉(五〇)等は本年四月八日

午後七時頃同村持留分教場

にて醫師高橋甲子次郎と納

税の事から口論の末同夜九

時頃酒氣に乗じて同人住宅

に侵入し略式にて安助、彌

吉は各罰金五十圓、兵司、

彌六は各同卅圓、正勝、寅

松、徳平を各同廿圓に處さ

れ正式裁判を申立たが此程

取下げた

園女を押し倒して

石城郡四

倉町字新町漁夫志賀武(三

四)は本年七月廿九日柴田

次郎(五四)瀧田熊太郎(五

六)中村逸作(五二)菅原勇

之助(四二)は古物商として

本年四月長谷川次雄其他數

名から古金銀を買受け規定

の帳簿に記載せず延吉、竹

次郎は罰金卅圓、熊太郎、

逸作、勇之助を同廿圓に夫

々略式命令さる

平町人事

出生

△田町 小齋五郎二男實

△揚土 星野一長男久一

△四丁目 阿部徳平長男

△番匠町 幸原(六五)

△死亡

△死 亡

△死 亡

△死 亡

△死 亡

△死 亡

△死 亡

△死 亡

△死 亡

△死 亡

△死 亡

△死 亡

△死 亡

△死 亡